

庭野財団 助成報告書（2019 年度）

作成：2020 年 2 月 20 日

提出：モザンビーク開発を考える市民の会
代表 大林稔

1. プロジェクト名：

アフリカ開発における土地をめぐる紛争を乗り越えるための日本における啓発活動～第 7 回アフリカ開発会議（TICAD）をとらえる

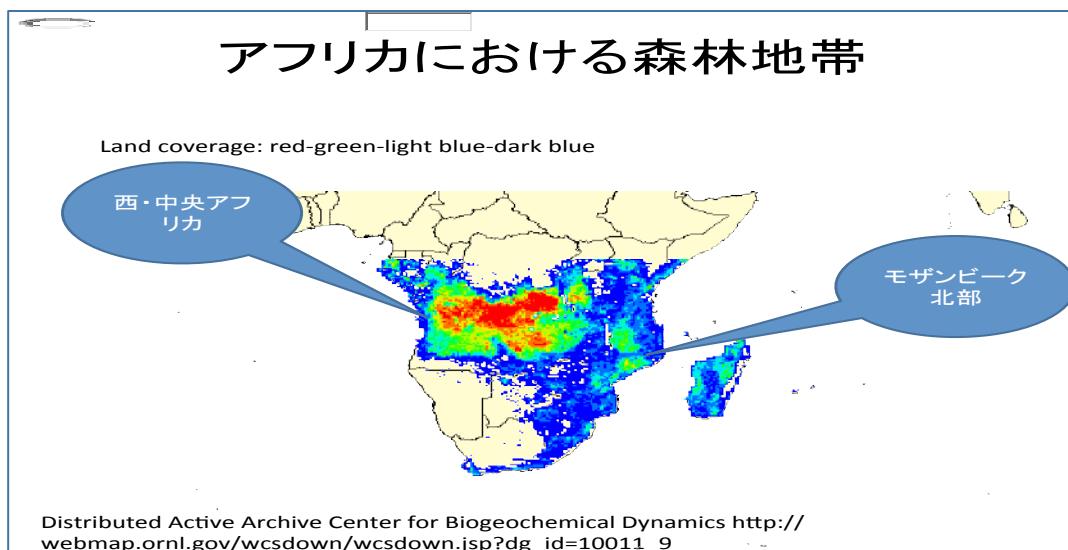
2. プロジェクト期間：

2019 年 8 月 1 日～2020 年 1 月 31 日（約 6 ヶ月間）

3. 背景

本年 8 月末に横浜で第 7 回アフリカ開発会議（TICAD）が開催され、アフリカ中から 30 を超える国家主席が来日する予定である。これまで、日本の外務省や民間企業などは、TICAD をアフリカへの経済進出を大いに促進するとともに、日本ならびに世界に喧伝する場として位置づけている。

しかし、日本の官民によるアフリカ進出は現地で、間接・直接的に様々な問題を生じさせてきている。最も深刻なものが、アグリビジネスや資源開発、それに伴った鉄道・道路などのインフラ開発による地域住民からの土地収奪である。このターゲットとなっているのが、自然が豊かな西・中央アフリカならびに南東部アフリカの森林地帯であり、住民が暮らしに不可欠な森林の伐採や空気や水源などの汚染が生じている。



世界の土地取引 (東京23区=62,000ヘクタール)

順位	地域	国名	取引ヘクタール
1	アフリカ	コンゴ民主共和国	6,426,601 ha
2	東南アジア	パプア・ニューギニア	3,792,653 ha
3	東ヨーロッパ	ロシア連邦	3,363,012 ha
4	東南アジア	インドネシア	3,235,335 ha
5	ラテンアメリカ	ブラジル	2,998,497 ha
6	アフリカ	南スーダン	2,691,453 ha
7	アフリカ	モザンビーク	2,448,695 ha
8	東ヨーロッパ	ウクライナ	2,404,407 ha
9	アフリカ	コンゴ共和国	2,148,000 ha
10	ラテンアメリカ	アルゼンティーナ	1,642,242 ha

このようなアフリカの政府と企業が一体になって進める上からの開発に対し、地域住民はコミュニティをあげて抵抗運動を繰り広げており、各地で衝突が生じている。カメルーンやモザンビークの事例のように、難民が流出するほどの武力衝突が生じている国もある。

森を伐られ、畑と家をブルトーザーでなぎ倒され、コミュニティを追われ、逃げた先でも土地を奪われる人々
モザンビーク北部、2015年



2014年～2015年全般
政府軍・警察による
野党襲撃&掃討作戦

ヴァーレの貨物車への度重なる攻撃
(2016年11月5,9日)



モザンビーク北部の炭鉱とそれを港まで運ぶナカラ回廊沿いで起きていた武力衝突、政府軍による無差別的な「制圧」活動



西/中央アフリカにおける外資による油ヤシプランテーション拡大のための大規模な土地収奪に抵抗するため国を越えたワークショップが女性を中心に積み重ねられてきている。なお、これら外資には日本の商社が含まれる。(撮影：GRAIN、2018年)

他方で、住民・コミュニティが非暴力的な手法によって紛争を解決するための様々な試みが、地元の社会運動や NGO、そして国際 NGO が連携する形で進められており、奪われた土地の奪還など成果が出ているケースも生まれつつある。このような運動に、弊会も日本国際ボランティアセンター（JVC）とともに参画している。

また、現在、世界は「誰一人取り残さない」を合い言葉に、環境・人権を重視した開発に取り組むための SDGs（持続可能な開発ゴール）の実現に向けて、日本を含む世界各国・各アクターがこれに取り組んでいる。これらゴールの中には、本事業に関わるゴールも多数含まれている（例：16:平和と公正をすべての人びとに、1: 貧困をなくそう、2: 飢餓ゼロ、13: 気候変動に具体的な対策）。

さらに、昨年末には、国連総会で「小農と農村で働く人びとの権利に関する国連宣言」が採択され、このような地域の小農や住民を無視した開発手法は国際的にも否定されるようになっている。なお、同宣言は、弊会によって日本語訳が準備され、昨年の3カ国民衆会議を通じて、広く日本の社会に紹介されている。

4. 目的

【①TICAD7 招聘プロジェクト】

このような開発による紛争の発生、それに抵抗する動き、国際連帯による転換について、TICAD7 の機会を活用し、西・中央アフリカと南東部アフリカから地元のリーダーらを招き、具体的に紹介してもらい、日本の官民や市民の関わり方を再考する機会を創出する。

【②広報プロジェクト】

TICAD7 後は、これまでの成果と知見について広く社会に触れてもらえるように、動画やホームページの制作に力を入れる。

* * *

5. 活動実施状況

【①TICAD7 招聘プロジェクト】

本プロジェクトは、以下の招聘者を日本に招く形で実施された。

(1) 招聘者

- エマニュエル・エロング (Emmanuel Elong) 氏 [中/西部アフリカ・カメルーン] : 油ヤシのプランテーションによる土地収奪に抗うコミュニティ組織のリーダー。小農。中央/西アフリカで、同じような問題に直面する住民や小農とともに連携を進め、情報交換や学び合い、共同行動によって、一部土地を取り戻しつつある。フランスの公共放送などでもその活動が取り上げられる。初来日。
- コスタ・エステバオ (Costa Estevao) 氏[南東部アフリカ・モザンビーク] : 日本が大型農業開発計画「プロサバンナ事業」を進める北部ナンピーラ州の最大の小農運動 (ナンピーラ州農民連合) のリーダー。篤農家としても尊敬される。州内で激化する土地収奪問題に取り組む。日本には4度の来日。TBSの番組で2度活動が紹介される。(今回3度目の番組が放送された)
- ボアベントゥーラ・モンジャーネ (Boaventura Monjane) 氏[南東部アフリカ・モザンビーク] : モザンビーク最大・最古の小農運動 UNAC の元スタッフ。昨年末、国連総会で採択された「小農と農村で働く人びとの権利国連宣言」を起草し、この実現を導いた国境を越える小農運動ビア・カンペシーナの国際局スタッフでもあった。現在、ポルトガルで博士課程に在籍中。「プロサバンナにノー！キャンペーン」の代表として来日。ジャーナリストでもあり、執筆多数。

(2) 活動日程

以下の活動日程で実行した。概ね、予定通りとなった。

	来日者関連	イベント関連
6月	来日者の選定とコンタクト	
7月	来日者のチケット確保・ビザ申請	イベント準備
8月		↓
8月26日	アフリカゲスト3名の来日	↓
8月27日	TICADサイドイベント打合せ	
8月28日		TICADサイドイベント「アフリカ農民の声を聞く（気候変動と家族農業）」(パシフィコ横浜)
8月29日		TICADサイドイベント「SDGsとアフリカ開発」(パシフィコ横浜)
8月30日	エマニュエル氏→奥秩父への農村見学 コスタ＆ボア氏→京都へ移動	京都での有機農家訪問、市民懇親会
8月31日	エマニュエル氏：奥秩父での農村見学	公開イベント「いまアフリカで起きていること」(キャンパスプラザ京都)
9月1日	エマニュエル氏離日 コスタ＆ボア氏→帰京	
9月2-3日		4日のイベントに向けた準備会合
9月4日		外務省・JICAとの政策協議

		院内集会「日本の開発援助とアフリカ小農」
9月5日	コスタ氏離日 ボア氏は京都の総合地球環境研究所での研究交流	
9月9日	ボア氏離日	
	成果発信	
9月30日	報告書作成	

(3) 活動成果

- 横浜、京都、東京で4回のイベントを開催し、延べ300名の方に参加いただき、この問題について当事者の声に耳を傾け、専門家から学び、共に考えてもらうことができた。
- 参加者には、メディアの方も多数含まれ、イベントの内容の発信に協力を頂き、記事や地上波テレビ、インターネット中継などを通じて、数十万人以上の人々にこの問題を届けることができたと考える。
- 9月4日に行った、モザンビークからの来日者と日本のNGO、そして外務省・JICA担当者らとの「意見交換会」には、国会議員やその秘書も出席し、当事者の声を直接届けるとともに、公金を使った援助の問題点などを鋭く追求することができた。この内容については、その後にあった院内集会で共有され、政策転換に向けたプレッシャーとなつたと考える。
- その後も、取材が続き、事業担当者の渡辺直子のラジオ番組出演（Jam the world）に繋がった。
- また、SNS上でもこの件が話題となり、現在でも多くの人の話題となっている。若い人達の情報拡散が続いている。
- これを受けて、弊会メンバーの船田クラーセンさやかの岩波書店「WEB世界」の連載も、アクセスが増え、1年前の記事も良く読まれるようになっている。（現在、新記事が準備されているところである。）
「モザンビークで何が起きているのか？～JICAの事業への現地農民の抵抗」
<https://websekai.iwanami.co.jp/posts/461>
- また、来日したアフリカの小農や住民リーダーたちからは、今回のイベントや交流、取材を通じて、活動に自信を持つことができたとのことであった。そして、今後ますます北と南の人びとが交流し、それぞれの課題を示し合いながら、互いに学び、一緒に政策や現状を転換するために働きかけていきたいとの決意も聞くことができた。
- 帰国後も、継続的に情報交換を行い、今後の連携に向けた関係を続けている。

(4) イベント詳細

- ① TICADサイドイベント「アフリカの農民の声を聴こう」（気候変動と家族農業）
- 日時：2019/8/28(水)18:00～19:30 会場：パシフィコ横浜
 - 参加者：65名
 - プログラム
 - ・ 報告：アフリカの農民リーダー代表（2名）、市民社会メンバー1名
 - ・ 解説：村上真平／家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン（国連「家族農業の10年」の推進母体）代表
 - ・ 質疑応答：モデレーター 林達雄／アフリカ日本協議会 顧問
 - ・ 司会／開催趣旨：渡辺直子／日本国際ボランティアセンター
 - 主催：アーユス仏教国際協力ネットワーク
 - 共催：アフリカ日本協議会(AJF)、日本国際ボランティアセンター(JVC)、モザンビーク開発を考える市民の会
 - 助成：(公益財団法人)庭野平和財団、(一般財団法人)大竹財団
- ② TICADサイドイベント「SDGsとアフリカ開発」（私たちの暮らしから考える）

- 日時：2019年8月29日(木)15:30～17:00 会場：パシフィコ横浜
- 参加者：115名
- プログラム
 - ・報告1：パームオイルと私たち：浜田順子（WE21 ジャパン理事）
 - ・報告2：油ヤシ・プランテーションで起きていること：
エマニュエル・エロング（カメルーン農民）
 - ・報告3：アフリカで大豆生産？～日本のODAプロサバンナ事業から見えること
ボア・モンジャーネ（モザンビーク市民社会）
コスタ・エステバオ（モザンビーク農民）
 - ・解説：グローバルフードシステムと日本
平賀みどり
 - ・フリーディスカッション～
 - ・コメント・ご挨拶 海田祐子（WE21 ジャパン理事長）
- <司会・全体進行> 渡辺直子（日本国際ボランティアセンター（JVC））

- 主催：認定NPO法人WE21 ジャパン 共催：GRAIN、日本国際ボランティアセンター、モザンビーク開発を考える市民の会
- 助成：地球環境基金(油ヤシ・プランテーション産業拡大に対応するためのコミュニティ能力強化と地域プラットフォームの形成), (公益財団法人)庭野平和財団, (一般財団法人)大竹財団

③ イベント「今、アフリカで起きていること～私たちの食や暮らし、税金から考える」

- 日時：2019年8月31日 13:30-16:30 場所：キャンパスプラザ京都
- 参加者：55名
- 主催：京都ファーマーズマーケット
- プログラム
 - 【報告1】アフリカ小農 x 日本NGO
「なぜモザンビーク小農は日本の援助に抗うの？」
コ스타・エステバン（ナンプーラ州農民連合）x 渡辺直子（日本国際ボランティアセンター）
 - 【報告2】世界の小農運動とオルタナティブの動き
「国連を変えた（小農の権利宣言採択）小農の繋がりとアグロエコロジー」
ボア・モンジャーネ（元ビアカンペシーナ国際局、モザンビーク市民社会）
 - 【座談会】日本的小農 x アフリカの小農
松平尚也（耕し歌ふあーむ/小農学会/京都大学大学院）
～フリーディスカッション&交流～
- <司会・全体進行>
井関敦子（京都ファーマーズマーケット）/小林舞（総合地球科学研究所 FEASTプロジェクト）

④ 院内集会 国連「小農権利宣言」「家族農業10年」を受けて考える日本の開発援助とアフリカ小農～モザンビーク、プロサバンナの事例から

<https://www.ngo-jvc.net/jp/event/event2019/09/20190904-peasant.html>

- 日時：2019年9月4日 15時半～18時半
- 参加者：65名
- プログラム
 1. 経緯（渡辺直子 日本国際ボランティアセンター）
 2. モザンビークからの訴え
(コ스타・エステバオン / ナンプーラ州農民連合)
(ボアヴェントウーラ・モンジャーネ / プロサバンナにノー！キャンペーン)
 - 外務省井関至康課長・JICA宍戸健一部長との公開議論
 3. 国際潮流と日本（池上甲一 / 近畿大学名誉教授・国際農村社会学会会長）
- 主催：日本国際ボランティアセンター、アフリカ日本協議会、ATTAC Japan、No!

to landgrab, Japan、モザンビーク開発を考える市民の会
○助成：庭野平和財団、大竹財団

【9月4日（水）15:30～18:30 院内集会@参議院議員会館 ご案内】 **国連「小農権利宣言」「家族農業10年」 を受けて考える日本の開発援助とアフリカ小農 ～モザンビーク、プロサバンナの事例から**



(5) イベントに関する広報の当初目標

助成申請時の目標として、以下を掲げた。

- IWJ のネット中継を実現する。(すでに依頼中)
以下の通り、過去のイベント等 13 件の中継配信がなされている。
<https://iwj.co.jp/wj/open/?s=%E3%83%A2%E3%82%B6%E3%83%B3%E3%83%93%E3%83%BC%E3%82%AF&area=>
- ネット中継にあわせて Twitter やフェースブックで連続投稿を行う(リアルタイムと事後)。
これは、事務局が管理するアカウント(「モザンビーク小農応援団」470 名のフォロワー)と弊会の役員の一人である船田クラーセンさやか(1 万人)のアカウントで行う。
- 事務局でも動画をとり、日本語の字幕を付けて Youtube で配信する。
管理チャンネル、過去の民衆会議動画は以下のとおり。
<https://www.youtube.com/channel/UCoZCgmp4w-1Ttbw65YqRtGQ>
- 配信力のある UPLAN にも動画配信を依頼する。
民衆会議の動画は、次のサイトで配信されている。
<https://www.youtube.com/watch?v=rNKEPe7jPkM> (抜粋: 826 回再生)
<https://www.youtube.com/watch?v=qhaN12Jsk9o> (日本語のみ: 528 回再生)
- 議事録をブログ(モザンビーク開発を考える市民の会、民衆会議)で公開する。
- 民衆会議の取材に来ていた TBS と NHK、NHK ワールドに本イベントを告知し、取材と番組制作を働きかける。(すでに告知済みなので、事業開始以降はやり取りを活発化させる)
- プレスリリースを報道各社に発送するとともに、プレスセンターでサイドイベントの広報を行い、国内外の報道機関に取り上げてもらえるように働きかけを行う。

(6) イベントに関する広報成果

次の通り、以上の 1. から 7. の目標のすべてを達成できた。またその効果は予想を超えていた。

【プレスリリース】

アフリカ諸国の国家元首・首脳級などが一堂に会する TICAD7(第7回アフリカ開発会議)にあわせてアフリカの農民運動のリーダーを日本の市民団体が招へい、公式サイドイベント等を開催

<https://prtentimes.jp/main/html/rd/p/000000060.000030680.html>

<https://prtentimes.jp/main/html/rd/p/000000078.000030680.html>



The image contains two screenshots of news articles from PRTIMES. The left screenshot is titled 'アフリカ諸国の国家元首・首脳級などが一堂に会するTICAD7(第7回アフリカ開発会議)にあわせてアフリカの農民運動のリーダーを日本の市民団体が招へい、公式サイドイベント等を開催' and includes a link to <https://prtentimes.jp/main/html/rd/p/000000060.000030680.html>. The right screenshot is titled '35億円超の国債が投入されている日本のODA「プロサバンナ」に現地からの反発の声、事業を躊躇する会員団による一般公開勉強会を12/23(月)に開催' and includes a link to <https://prtentimes.jp/main/html/rd/p/000000078.000030680.html>.

【記事】

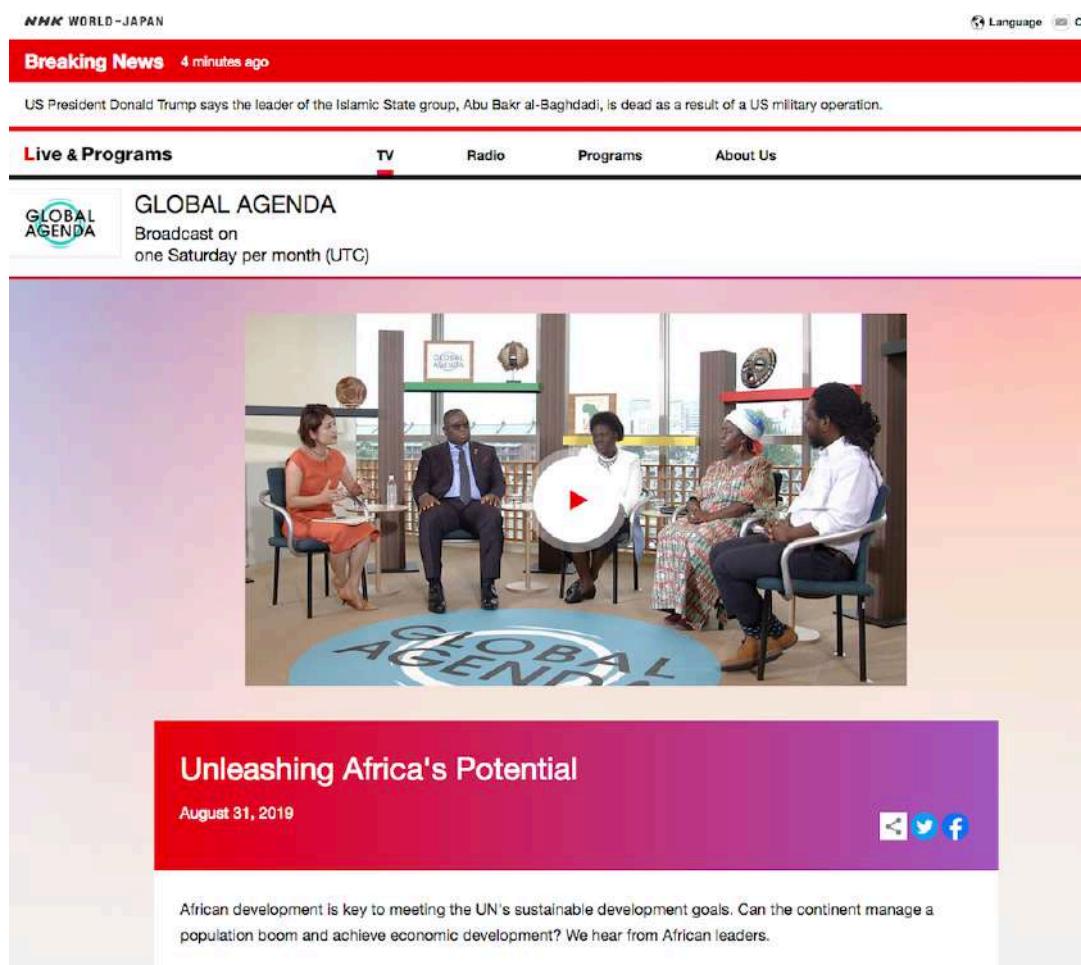
いずれも時事通信から配信され、各新聞で掲載。ヤフーでも記事として配信。

- ① 農業支援見直し求める=モザンビーク農民、JICAと対話（9月5日）
<https://headlines.yahoo.co.jp/cm/main?d=20190905-00000009-ji-j-int>
- ② 日本の農業支援、弊害も=モザンビーク農民が訴え－T I C A D（8月30日）
<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190830-00000006-ji-j-int>
- ③ カメルーン農民、大企業の農地収奪批判=まず人権尊重を（8月29日）
<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190829-00000059-ji-j-int>

【テレビ番組】

- ① NHK World Global Agenda（8月31日）”Unleashing African Potential”

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/globalagenda/20190831/2047047/>



The screenshot shows the NHK World-Japan website. At the top, there is a red banner with 'Breaking News' and a timestamp '4 minutes ago'. Below the banner, a news headline reads: 'US President Donald Trump says the leader of the Islamic State group, Abu Bakr al-Baghdadi, is dead as a result of a US military operation.' The main navigation menu includes 'Live & Programs' (which is currently selected), 'TV', 'Radio', 'Programs', and 'About Us'. On the left, there is a sidebar for 'GLOBAL AGENDA' with broadcast information: 'Broadcast on one Saturday per month (UTC)'. The main content area features a video thumbnail of five people in a studio setting, with a large play button in the center. Below the video, the title 'Unleashing Africa's Potential' is displayed, along with the date 'August 31, 2019'. To the right of the title are social media sharing icons for YouTube, Twitter, and Facebook. A descriptive text box below the title states: 'African development is key to meeting the UN's sustainable development goals. Can the continent manage a population boom and achieve economic development? We hear from African leaders.' At the bottom of the page, there is a summary of the program's topic: 'African development is key to meeting the UN's sustainable development goals. Can the continent manage a population boom and achieve economic development? We hear from African leaders.'

African development is key to meeting the UN's sustainable development goals. Can the continent manage a population boom and achieve economic development? We hear from African leaders.

Moderator: Miki Ebara (Left)

Chief International Correspondent, NHK WORLD-JAPAN

- *Julius Maada Bio (Right)*
President, Republic of Sierra Leone
- *Mary Kojo Ali from South Sudan (Left)*
Acting Director General, Ministry of Gender, Child and Social Welfare
- *Musimbi Kanyoro from Kenya (Center)*
Chair, UWC International Board
Former CEO, Global Fund for Women
- *Boaventura Monjane from Mozambique (Right)*

- ② TBS 日本のODAに現地から「NO！」(2019年9月7日) (2分39秒)
https://news.tbs.co.jp/sp/newseye/tbs_newseye3771535.htm?1567867970758



The screenshot shows a video player interface. At the top left is the TBS NEWS logo. The main video frame shows a man in a blue shirt speaking. A yellow subtitle at the bottom of the frame reads 'モザンビークでのプロサバンナ事業を中止してほしいのです'. Below the video frame is a blue progress bar showing the video is at 2:33 of 2:43. To the right of the progress bar are video control icons. Below the video frame is a white bar containing the video title '日本のODAに現地から『NO!』' and the upload date '7,722回視聴・2019/09/09'. To the right of this bar are like, dislike, share, save, and more options buttons. At the bottom of the player is a red 'チャンネル登録' (Subscribe) button. The video content summary below the player states: '「最後の巨大マーケット」と言われるアフリカ。日本政府は民間投資の拡大などに力を入れていますが、現地では日本が後押しする大規模な農業開発への根強い反発が続いています。何が起きています。何が起きているのでしょうか…」'.

「最後の巨大マーケット」と言われるアフリカ。日本政府は民間投資の拡大などに力を入れていますが、現地では日本が後押しする大規模な農業開発への根強い反発が続いています。何が起きているのでしょうか…」

- TBS のサイト上で公開され、9月7日から9日まで、ニュース番組で最も視聴された番組としてトップ。
- ヤフーサイト上でも同様に、9月7日から9日まで、政治部門でトップ。
- その後、フェースブック上でも公開され、1ヶ月で15万回再生
- 現在、YouTube サイトでのみ公開中（現在、1万8千回再生中）
<https://www.youtube.com/watch?v=OBiNqQW1h3U>

- ③ TBS 日本 (2020年1月1日) Nスタ「日本のODA要らない」アフリカ農民の訴えにJICAは？

https://www.youtube.com/watch?v=_RHeIvc0Er0&feature=youtu.be



【ラジオ番組】

「J-WAVE JAM THE WORLD」より UP CLOSE

1. on-air 日時 令和 1 年 9 月 12 日(木曜日)
2. テーマ アフリカの国「モザンビーク」で進む、日本による農地開発。その舞台裏で起きている問題にフォーカス (ゲスト: 国際協力 NGO 「日本ボランティアセンター」 地域開発グループマネージャー 兼 南アフリカ事業 ご担当 渡辺直子さん)

<https://www.j-wave.co.jp/original/jamtheworld/>

* 当会で準備した議事録→

<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-420.html>

【動画配信】

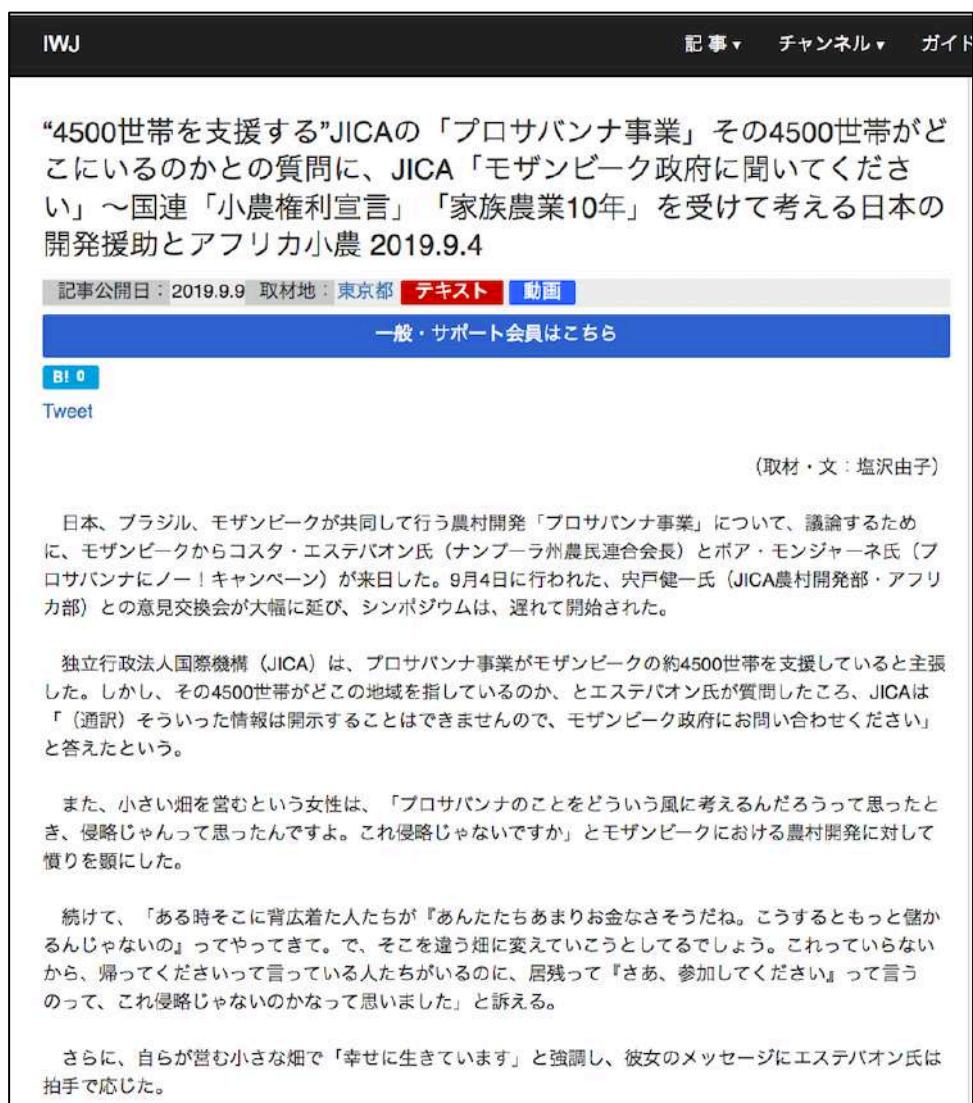
- ① 8/29 TICAD サイドイベント
(SDGs とアフリカ開発? ~私たちの暮らしから考える~
<https://www.shiminmedia.com/video/56889>
- ② 9/4 院内集会
国連「小農権利宣言」「家族農業10年」を受けて考える日本の開発援助とアフリカ小農モザンビーク、プロサバンナの事例から

●IWJ チャンネル5

https://twitcasting.tv/iwj_ch5
https://twitcasting.tv/iwj_ch5/movie/565306765

●UPLAN

<https://www.youtube.com/watch?v=Uq00s9QH2zY&feature=youtu.be>



記事公開日：2019.9.9 取材地：東京都 テキスト 動画

一般・サポート会員はこちら

BI 0

Tweet

(取材・文：塩沢由子)

日本、ブラジル、モザンビークが共同して行う農村開発「プロサバンナ事業」について、議論するため、モザンビークからコスタ・エステバオン氏（ナンブーラ州農民連合会長）とボア・モンジャーネ氏（プロサバンナにノー！キャンペーン）が来日した。9月4日に行われた、宍戸健一氏（JICA農村開発部・アフリカ部）との意見交換会が大幅に延び、シンポジウムは、遅れて開始された。

独立行政法人国際機構（JICA）は、プロサバンナ事業がモザンビークの約4500世帯を支援していると主張した。しかし、その4500世帯がどこの地域を指しているのか、とエステバオン氏が質問したところ、JICAは「（通訳）そういった情報は開示することはできませんので、モザンビーク政府にお問い合わせください」と答えたという。

また、小さい畑を営むという女性は、「プロサバンナのことをどういう風に考えるんだろうって思ったとき、侵略じゃんって思ったんですよ。これ侵略じゃないですか」とモザンビークにおける農村開発に対して憤りを顎にした。

続けて、「ある時そこに背広着た人たちが『あんたたちあまりお金なさそうだね。こうするともっと儲かるんじゃないの』ってやってきて。で、そこを違う畑に変えていくとしているでしょう。これっていらないから、帰ってくださいって言っている人たちがいるのに、居残って『さあ、参加してください』って言うのって、これ侵略じゃないのかなって思いました」と訴える。

さらに、自らが営む小さな畑で「幸せに生きています」と強調し、彼女のメッセージにエステバオン氏は拍手で応じた。

- ③ 12月23日 国會議員主催プロサバンナ事業勉強会

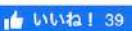
● IWJ: https://twitcasting.tv/iwj_ch5 国會議員とNGOがJICAのプロサバンナ事業問題をとことん追及!! 「#JICAが自ら農民や市民社会の分断工作に手を染めた!?' #プロサバンナ 勉強会
<https://iwj.co.jp/wj/open/archives/464177>
ハイライト動画（9分）

<https://www.youtube.com/watch?v=sZvRv76a9hQ&feature=youtu.be>

国会議員とNGOがJICAのプロサバンナ事業問題をとことん追及!! 「JICAが自ら農民や市民社会の分断工作に手を染めた!?」～12.23 プロサバンナ事業に関する勉強会 2019.12.23

記事公開日：2019.12.24 取材地：東京都 動画

一般・サポート会員はこちら

B! 0  シェア 

2019年12月23日（月）14時より東京都千代田区の参議院議員会館にて、日本の海外援助・プロサバンナ事業の問題について、国会議員とNGOが出席し、プロサバンナ事業に関する勉強会が開かれた。

■ハイライト



【事後のイベント内容の発信】

- ① TICAD サイドイベント（8月29日）の議事録の作成・公開
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-419.html>
当日パワーポイントの公開
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-421.html>
- ② 院内集会（9月4日）の議事録の作成・公開
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-413.html>
当日パワーポイントの公開
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-409.html>
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-410.html>
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-411.html>
- ③ JAM the World（9月12日）の議事録の作成・公開
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-420.html>
- ④ 国會議員主催勉強会の議事録の作成・公開
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-445.html>
<http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/blog-entry-446.html>

5. 活動実施状況

【②広報プロジェクト】

(1) 活動目標

活動目標は次の通りであった。

1. 民衆会議やこれまでの活動の成果、TICAD7での成果などを、誰にとっても分かりやすい形で整理する。
2. 新しくホームページを立ち上げ、広く発信する。

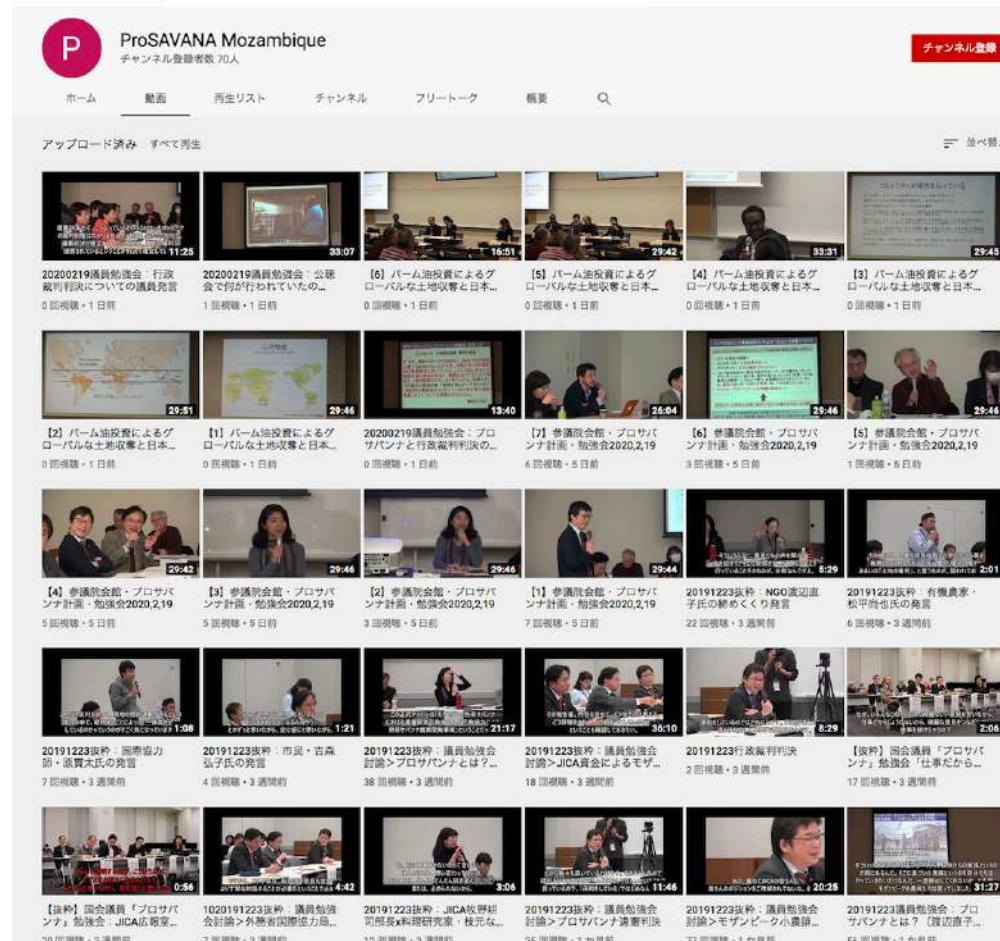
(2) 活動成果

【動画】

2019年10月から、下記のYoutubeチャンネルに新規に40本の動画をアップできた。その結果、チャンネル登録者数も、動画40名程度から70名に増えた。

<https://www.youtube.com/channel/UCoZCgmpP4w-1Ttbw65YqRtGQ/videos>

- ・ 抜粋動画は、ツイッターやFacebookにもアップし、7万回以上再生された動画もあり、広くSNS上で拡散されている。特に、人気のある動画が、モザンビーク小農の声を字幕付きで紹介するショート動画や、外務省・JICAと国会議員・市民団体との討論の様子であった。TBSのテレビ番組でこの問題に関心をもった一般の視聴者が、ネット上で情報を探し、これらの動画に触れる人が増えている。
- ・ 特に、若い人々は、文字情報よりも視角情報、中でも動画に多大な興味を示すことから、動画の拡散を通じて、関心をもつ若者が増えており、イベントへの参加の他、質問メールなどが増えている。
- ・ また、TBSの番組の他、SNS経由で関心を寄せる新聞記者などのメディア関係者も増えており、未だ紙面化はされていないものの問い合わせや取材が増えた。(＊現在、共同通信社の現地取材の手配を行っているところである)



【ホームページ】

現在のブログでは情報を見つけることが困難なこともあり、モザンビーク小農や市民社会の主張、活動成果や意義などを効果的に発信することが困難な状態にあった。今回ホームページを作ることができ、既存のデータのナビゲーターという位置づけで、既存のデータを活かしつつ、世間に広くこの問題を整理した形で発信することができるようになった。
<http://www.mozambiquekaihatsu.net>



モザンビークの開発を考える



プロサバンナ事業とは
事業の概要に加え、事業がなぜ問題なのかを説明しています。事業実施側の期待と現地の実情との乖離についても触れています。



モザンビーク農民が求めるもの
どのような農業が農民を守り、どのような農業が持続的なのか。モザンビークに暮らす人びとが望むオルタナティブとはなにか。



これまでの経緯
プロサバンナ事業開始に至る経緯、土地収奪やそれに反対する小農運動、事業実施者による住民の分断を作り出すための動きなど、時系列で説明します。



モザンビーク開発を考える市民の会は、
日本の援助で実施されている「プロサバンナ事業」によって
望んでいる暮らしを奪われる人が生まれないよう
そこで暮らす人びと共に、モザンビークの開発を考えていきます。

6. 今後の課題

- 以上の通り、当初予定した以上の活動成果をあげることができた。地上波のテレビ番組やFMラジオへの出演、ヤフー記事での紹介などを通じて、思った以上に多様な層の方々に議論に参加したもらうことができるようになり、現在ツイッターやフェースブック、ブログ、動画等を通じて、意識向上に向けた取り組みがなされている。
- これらの関心をもつようになった新しい層に正確で豊富な情報へのアクセスを分かりやすい形で提供するために、新設ホームページは多大な役割を果たすことになると考える。そのために、ホームページを宣伝していく必要がある。
- このような関心の高まりを受けて、国会議員たちもこの問題への取り組みを本格化させている。9名の国会議員主催勉強会は、外務省やJICAに大きな危機感をもたらすようになっており、これまで以上に政策転換につながる可能性が出てきている。
- このメンタムを、モザンビーク小農の求める地域社会における平和的な発展の道に日本の援助が大転換を遂げられるよう、引き続き努力していきたい。

以上の活動を継続させつつ、以下の短・中長期的目標に向けて努力していく所存である。

【長期的なビジョン】

- 武力紛争のない平和で、連帯に根ざした発展が実現する
- とくに、アフリカでの土地収奪や森林伐採、人権侵害がなくなる
- 気候変動の悪化に歯止めがかかる

【中期的ビジョン】

- アフリカの地域社会で闘う小農や住民、市民社会のエンパワメント
- 住民主導の発展の実現に向けて官民が協力する
- 日本政府や企業が、「小農と農村で働く人びとの権利に関する国連宣言」に根ざし、地域住民の目から見て環境・社会に十分に配慮した、開発援助計画や投資計画の策定を行う

【短期的目標】

- 地域住民から問題が指摘されている開発や投資事業が止まる
- 奪わされた土地が戻ってきて、人権抑圧が減る
- 日本でも「小農と農村で働く人びとの権利に関する国連宣言」への理解が広まり、行動指針となる
- 日本の市民や市民社会がこれらの問題に関心をもち、アフリカの人びとや市民社会と繋がり、モニタリングや連帯の活動に参画する

貴財団のご協力、心より感謝申し上げます。

モザンビーク開発を考える市民の会

代表 大林稔（龍谷大学名誉教授）

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル アフリカ日本協議会気付

メール：office@mozambiquekaihatsu.net